

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

- 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い……………94
- 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!……………94
- 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!……………94
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い……………95
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ……………96
- 北海道支部第37回研修会の開催について (P) 申込締切 11月21日……………97
- 農地保全研究部会第35回研究集会・現地研修会の開催について（第3報） (P) 申込締切 11月14日……………97
- 学会記事……………98

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

(P) のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成26年11月13日	京都支部	第71回研究発表会 (P)	—	岐阜市	82巻4, 6号
平成26年11月18, 19日	水文・水環境研究部会	第27回シンポジウム (P)	—	府中市	82巻10号
平成26年11月26, 27日	農地保全研究部会	第35回研究集会・現地研修会 (P)	都市における農地の保全とその役割	藤沢市ほか	82巻7, 9, 11号
平成26年12月3日	北海道支部	第37回研修会 (P)	大区画圃場を取り巻く支援技術	札幌市	82巻11号
平成26年12月4, 5日	応用水理研究部会	平成26年度講演会 (P)	農業農村工学分野における応用水理学に関する研究	つくば市	82巻9号
平成27年1月20日	北海道支部	支部講習会 (P)	—	札幌市	—

### 第82巻第12号予定

展望：松本雅夫

小特集：国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今

- ①粒度改良によるパイプライン埋戻し土の液状化抵抗の改善：小野寺康浩ほか
- ②鋼矢板水路の腐食特性を考慮した保護対策の実証的研究：佐藤嘉康ほか
- ③山岳水路トンネルの耐震照査手法の検討：有野 治ほか
- ④農業用貯水池でのアスファルトライニングの長期供用性：加形 護ほか
- ⑤長期供用農業用ダムにおける地震観測システムの更新とその観測記録の整備：黒田清一郎
- ⑥農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）の普及に向けた ARIC の取組み：前田健次

技術リポート

- 北海道支部：効果的整備に向けた地域支援のためのアプローチ：森井大輔ほか
- 東北支部：新型土のうの敷設による軟弱地盤の補強：下川 憲ほか
- 関東支部：市街地における農業用排水路管理の現状と課題：川口聡史
- 京都支部：「水のつながりプロジェクト」の取組み：長谷川憲生
- 中国四国支部：渇水時における水路上下流の取水動向：高橋賢司ほか
- 九州沖縄支部：ため池整備事業野岳地区における仮締切り堤の漏水調査：田崎裕悟

小講座：耐震性能照査：林田洋一

私のビジョン：安定した食糧生産基盤の継承と安全な農村の形成に向けて：上野和広

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24CPDを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信 (事前に Web 利用登録が必要)

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌11月号掲載の問題は12月末日が解答期限)

#### 5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2CPDを、7~9問正解で1.5CPDを自動登録 (正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。)

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております！

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

#### 学会誌 82, 83 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ			要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内)
82 巻	12 号	国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今 (仮)	公募終了
83 巻	1 号	国際的な研究協力とその波及効果 (仮)	公募終了
	2 号	農業農村工学分野における ICT 活用の現状と今後 (仮)	公募終了
	3 号	河川における環境配慮の技術 (仮)	公募終了
	4 号	次世代型農業水利システムの姿 (仮)	11月17日
	5 号	国際土壌年 2015 特別企画：かけがえない土壌のために農業農村工学ができること、すべきこと (仮)	12月15日

6号 大会特集号(中国四国支部)(仮)	公募なし
7号 世界の食料安全保障に向けて(仮)	2月16日
8号 放射性物質に関する対策や研究の現状(仮)	3月16日
9号 農業農村整備事業における気候変動への適応(仮)	4月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
 公益社団法人 農業農村工学会  
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 83巻4号テーマ「次世代型農業水利システムの姿」(仮)

農村の人口減少・高齢化の進展など農村社会が変化する中、担い手への農地集積や水田フル活用などの施策が展開されており、農業の構造改革が加速的に進展しつつあります。このため、水利システムについても、大規模経営・少数の担い手が大勢を占める水利形態への適合や営農変化に伴う水需要変動への対応など、水管理の省力化・弾力化・効率化等に向けた検討が必要となっております。加えて、地球温暖化、渇水・集中豪雨の頻発など気候変動に対応した新たな水需要や排水管理への対応も求められています。

折しも2015年4月、韓国において第7回世界水フォーラム

の開催が予定されており、持続可能な水資源の利用や管理など、世界的な水に係わる課題について議論されます。

そこで本号では、農村社会・農業構造の変容や気候変動等への対応をにらんだ次世代型農業水利システムの構築に向けた検討・取組み事例に関する小特集を企画します。具体的には、現状の水利システムにおける課題の分析、弾力的配水を可能とする施設配置・水管理手法の提案、既存の農業用水の有効活用や新たな水管理システムの導入に関する事例紹介などの報文を広く募集します。

### 83巻5号テーマ「国際土壌年2015特別企画：

#### かけがえのない土壌のために農業農村工学ができること、すべきこと」(仮)

土壌は農業の根幹をなす資源であり、その持続的な利用は、人類が生きるための絶対条件です。しかし、土壌の劣化に伴う農業生産性の低下は、国内外を問わず進行しています。今、その深刻さを社会が広く認識し、適切な対策を講じることが求められています。このような状況のなか、2013年12月20日、国連総会で2015年を「国際土壌年」とすることが宣言されました。これを機に、土壌の利用や管理に大きな影響をもつ農業農村整備の分野においても、土壌の持続的利用に対する科学・技術面でのこれまでの貢献や将来に向けた責務を社会にアピールする必要があります。

農業農村工学では、たとえば、土壌の肥沃度や保全性を強く意識した農地整備、農地土壌の機能を活用した地域資源循環シ

ステム、土壌の塩類化を考慮した乾燥地での灌漑排水、重金属や放射性核種による汚染土壌対策など、幅広い分野が直接・間接的に土壌の持続的な利用に関わっています。そこで、農業農村工学分野の行政施策、事業、研究、教育、普及のなかで土壌がどのように取り扱われているか、その全体像を俯瞰しつつ、土壌の健全性の維持に資する研究や技術を紹介することにより、かけがえのない土壌へのわれわれの向き合い方を考える小特集を企画しました。「土壌のもつ能力の維持・発展」という視点を内包した、農地整備、農地保全、灌漑排水、資源循環などの諸分野に関わる国内や海外の事業、研究や啓蒙活動についての報文を広く募集します。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.247と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業

に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっております。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan 社

発行スケジュール：年4回

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込み下さい。

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌，国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は，2014年10月に Vol.12, No.4 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より，トムソン・ロイター社の SCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に，SCIE の IF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルは IF=1.247 と高い評価を得ております。

また，世界14カ国から Editor（23名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが，投稿料，掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

なお，2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国（Dr. Jin Yong CHOI）になります。

投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）をご利用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL：+81-92-642-2909 FAX：+81-92-642-2914

E-mail：yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の

多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等である。

### 編集体制

・ Editor-in-Chief：Dr. Masaru MIZOGUCHI（Japan）

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14カ国から23名

・ Editing Board 26名

・ Chief Management Editors

Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Jin Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

・ Managing Editors

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

北海道支部第 37 回研修会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 1. 日 時 平成 26 年 12 月 3 日 (水) 9:30~15:00
- 2. 会 場 札幌市・北海道大学学術交流会館 2 階講堂  
(札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)
- 3. テーマ

「大区画圃場を取り巻く支援技術」

農家戸数の減少や農業者の高齢化など地域の抱える課題をにらみつつ、農地の集積と担い手の育成支援を目指して、農地再編整備事業や経営体育成基盤整備事業といった大規模な基盤整備事業が各地で進められています。

北海道支部では昨年度のシンポジウムにおいて「大区画圃場の整備」というテーマ設定のもと、いわばハード論としての基盤整備の現状と課題を議論しました。

大区画圃場を利用した農業の生産性、収益性を持続させさらに発展させるには、大区画化のメリットである省力化のための営農や栽培技術の開発とその活用が不可欠です。そこで、省力的な栽培技術、IT を取り入れた農作業機械の利用や圃場管理の合理化など、大区画圃場での営農にまつわる先進事例を紹介していただき、これら支援技術を含めた大区画化の今後を考える場として研修会を企画しました。

講師およびプログラムについては調整中です。北海道支部ホームページにてご案内する予定です。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

4. 参加申込み

下記様式により、E-mail、FAX または郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成 26 年 11 月 21 日 (金) です。

【申込様式】

所属機関		
同上所在地		
申込代表者		TEL
氏 名	所 属	備 考

5. 申込み・問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

TEL: 011-706-3641 FAX: 011-706-2494

6. 参加費用 2,000 円

農地保全研究部会第 35 回研究集会・現地研修会の開催について (第 3 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会では、下記の要領で研究集会・現地研修会を開催します。参加申込みの締切を 11 月 14 日まで延長いたしました。多数のご参加をお待ちしています。

- 1. テーマ 都市における農地の保全とその役割
- 2. 開催日

- ・研究集会 平成 26 年 11 月 26 日 (水)
- ・現地研修会 平成 26 年 11 月 27 日 (木)

3. 場 所

- ・研究集会 日本大学生物資源科学部 本館 14 階 NU ホール (神奈川県藤沢市)
- ・現地研修会 神奈川県中西部 (伊勢原市・秦野市・平塚市)

4. 研究集会内容

- 9:30~10:00 受付
- 10:00~10:10 部長挨拶  
日本大学生物資源科学部 河野英一
- 10:10~10:50 講演①  
「都市近郊農地における牛糞堆肥の施用と E.coli の流出対策」 東京農業大学地域環境科学部教授 三原真智人
- 10:50~11:30 講演②  
「農地・緑地・河川による都市暑熱化緩和のリモートセンシ

ング解析」 日本大学生物資源科学部准教授 申田圭司

11:30~12:10 講演③

「宮城県における農業農村の復旧復興状況について」

宮城県農林水産部農村振興課技術副参事 岩佐郁夫

(12:10~13:00 昼食)

13:10~13:50 講演④

「農地保全関連事業の現状と課題」

農林水産省農村振興局整備部防災課海岸・災害事業調整官 遠藤知庸

13:50~14:30 講演⑤

「都市農地の利活用を巡る新たな動きについて」

(一財)都市農地活用支援センター常務理事 佐藤啓二

(14:30~14:40 休憩)

14:40~15:20 講演⑥

「神奈川県都市農業推進に向けた農地保全の取り組み」

神奈川県環境農政局農地保全課農地活用グループリーダー 平岡稔幸

15:20~16:00 講演⑦

「横浜市の市民農園制度をはじめとした農地保全の取り組み」 横浜市環境創造局みどりアップ推進部

農地保全課課長補佐 内田義人

情報交換会 4,000円

16:00~16:10 休憩

現地研修会 4,000円

16:10~17:00 総合討論

座長:三重大学大学院教授 成岡 市

(2) 申込み・問合せ先

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

17:30~19:30 情報交換会

会場:学内地下1階カフェテリア

(研究集会会場と同一建物内)

日本大学生物資源科学部生物環境工学科

地域環境保全学研究室 笹田

E-mail:sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp

TEL&amp;FAX:0466-84-3836 (直通)

**5. 現地研修会内容**

8:30 藤沢駅集合

(3) 申込み方法および参加費の振込先

8:45 藤沢駅発(バス)

上記メールアドレスに, ①参加者所属, ②参加者名, ③

10:00~ 伊勢原市中老年ホームファーマー体験研修農園視察

参加する会(研究集会・情報交換会・現地研修会), ④参加費振込予定日, ⑤その他(質問など)を記載し, お送り下さい。その後, 参加費を振り込みいただいた時点で申込み完了とさせていただきます。

11:30~ 秦野市東田原(構造改善事業, ふれあい農園)視察+昼食

(4) 振込先

13:00~ 平塚市土屋(里地里山保全事例)視察

・ゆうちょ銀行から振込みされる場合

14:15~ 園芸農業体験施設「花菜ガーデン」, 大型農産物直売所「あさつゆ広場」視察

ゆうちょ銀行 記号10290 番号94715621

16:00 JR平塚駅

・他の銀行から振込みされる場合

16:30 藤沢駅

ゆうちょ銀行(9900) 店番028 普通9471562

農地保全研究部会(ノウチホゼンケンキュウブカイ)

**6. 参加費および申込み**

(1) 参加費 研究集会 3,000円

(5) 申込締切 平成26年11月14日(金)

**学会記事****I. 理事会****公益社団法人農業農村工学会第234回理事会議事録****I. 開催場所** 農業土木会館2階会議室**II. 開催日時** 平成26年9月24日(水)14:00~16:00**III. 理事現在数及び定足数** 現在数20名, 定足数11名**IV. 出席理事**

渡邊紹裕会長, 林田直樹, 池田 正各副会長

小前隆美専務理事

穂野和人, 井上 京, 石井龍太郎, 北辻政文, 久保成隆,

後藤 章, 権平哲三, 高瀬恵次, 豊田裕道, 中田摂子,

中野拓治, 松尾芳雄, 森井俊広各理事

**V. 出席監事**

萩野寿一, 長利 洋

**VI. 定足数の確認等**

総務部長が定款第37条の規定に基づき定足数の充足による本理事会の成立を確認した。併せて議案資料を確認した。

また, 定款第36条の規定により会長が議長となること及び定款第38条第2項の規定により出席した会長, 監事が議事録に記名押印を行うことを確認した。

**VII. 議事の概要****1. 決議事項**

(1) 平成26年度支部大会への本部役員派遣について

専務理事から同議案について説明があり, 審議の結果,

提案どおり全員一致で承認可決した。

(2) 会員の入退会について

専務理事から平成26年5月1日から平成26年9月15日までの会員の入会について説明があり, 審議の結果, 提案どおり全員一致で承認可決した。

**2. 報告事項**

専務理事から以下の(1)及び(2)並びに(4)から(11)までの10件について報告があり, 支部業務担当理事から(3)についてそれぞれ報告があった。(4)については, 大会講演会運営委員長の森井理事から詳細な報告があった。

(1) 研究部会長, 各種委員会委員等の交代について

(2) 各常置委員会の活動状況について

(3) 支部活動報告について

(4) 平成26年度(第63回)農業農村工学会大会講演会開催報告について

(5) 第38回水の週間「水の展示会」における企画展示について

(6) 第13回「国際水田・水環境工学会“PAWEES”国際研究集会」と「第13回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議」の開催について

(7) 東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会の活動について

(8) 各種行事等の協賛・後援について

(9) 技術者育成を巡る動きについて

(10) 会員減の状況と対策について

(11) 名誉会員のご逝去について

(12) その他

- ① 会長から、水土の知のビジョンをミッションとするなど学会運営について検討したいとの発言があり、参画者を募ったが特段の申し出がなかったことから、会長の指名により招集することとなった。
- ② 専務理事から次回以降の理事会等の開催予定について説明があった。

平成 26 年 9 月 24 日

公益社団法人農業農村工学会第 234 回理事会  
 議 長 渡邊 紹裕  
 監 事 荻野 寿一  
 監 事 長利 洋

## II. 会員の動向

### 1. 会員数 (平成 26 年 9 月 1 日～30 日)\*

	入会	退会	現在数
名誉会員	0	1	244
正会員	35	8	8,617
学生会員	6	2	217
計	41	11	9,078
賛助会員	0	1	133

### 2. 会員の訃報

名誉会員 緒形 博之 広島県個人  
 平成 26 年 9 月 12 日ご逝去 95 歳

## 編 集 だ よ り

自身が在住する滋賀県には、新たに整備された水利施設とともに、歴史的な水利施設も数多く存在しています。時折、学会誌の表紙を飾る円筒分水工、扇型分水工などがその一例です。余呉川の氾濫を防ぐため山を掘り貫いた「西野水道」や、「大原貯水池」「淡海湖」など多数の農業用ため池は、水害や干ばつに苦しむ地域を救うために人力で開削・築造されました。胸の熱くなるこうした逸話は全国各地にあります。本号には、囂らずも全国の各ブロックから報文が集まり、各地の貴重な水利施設が持つ熱い歴史の一端をうかがい知ることができました。

どこの地域でも農業従事者の減少、高齢化、兼業化などにより、貴重な水利施設や農地の維持管理が行き届かなくなりつつあります。それは同時に、施設の歴史や技術の継承が滞る恐れがあることも意味しています。ご寄稿いただいた報文には、このような状況を打開し、施設を地域の宝として守っていく各地の取組みが紹介されており、他の地域においても

こうした取組みが参考にされ、それぞれの地域の宝が大切に受け継がれていくことを願います。

職人が道具にこだわり、手入れしながら大切に使うのと同じように、各地の水利施設や農地が、地元の人に愛され大切に使われていくことが、自分のしごとの目指すところであると近年感じています。そのためのツールの一つとして機能診断があり、北海道の事例のように、施設を使う人・管理する人たちが自ら診断や修理を行えるようにする視点はきわめて重要と思われます。本号の編集を通し、LCC を最小限に抑えることや、既存の施設と同等のものに更新することに必ずしも限定されない、時代と地域の思いを反映した水利施設の機能診断と更新の事例が蓄積され、何年か後の学会誌で特集することができればという思いに至りました。

最後に、本号の執筆および編集にご尽力いただきました皆様に心から感謝を申し上げます。

(滋賀県立大学環境科学部 皆川明子)

農業農村工学会誌 第 82 巻 第 11 号 [通巻 756 号] 定価 1,204 円 (本体 1,115 円) 年費：正会員 9,600 円、(60～65 歳) 7,200 円、(66 歳以上) 4,800 円  
 平成 26 年 10 月 25 日 印刷  
 平成 26 年 11 月 1 日 発行  
 編集兼発行者 公益社団法人 農業農村工学会  
 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
 農業土木会館内  
 郵便振替 00160-8-47993  
 TEL: 03-3436-3418(代表) FAX: 03-3435-8494  
 http://www.jsidre.or.jp/ E-mail: suido@jsidre.or.jp  
 印刷所 三松堂株式会社  
 〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1

本誌広告一手取扱い「株式会社廣業社」東京都中央区銀座 8-2-9 TEL: 03-3571-0997 (代表)